

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成19年12月23日

【評価実施概要】

事業所番号	1590800015
法人名	社会福祉法人 ほのぼの小千谷福祉会
事業所名	グループホームほのぼの
所在地	新潟県小千谷市大字川井1690番地 (電話) 0258-81-4010

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 19年 11月 17日

【情報提供票より】 19年 10月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	21人 常勤 19人、非常勤 2人、常勤換算 20.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 2階 建ての 1 ~ 2 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,010 / 39,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり		850 円

(4) 利用者の概要 (19年 10月現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2		2名	
要介護3	8名	要介護4		3名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 78歳	最低	58歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連 魚沼病院、北村医院、宮齒科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢者が住みなれた地域での暮らしを続けられる支援をめざし、当初は任意の通いサービス事業所としてスタートした事業所である。その実践の中で、利用者をずっと支えるサービスの必要性が生まれ、グループホームを開設するに至った。より安定した基盤の上でサービス提供を行おうと、運営母体も、スタート当初の任意団体からNPO法人を経て、平成18年には社会福祉法人格を取得した。NPO法人時代から市の委託事業として「地域の茶の間」を運営しており、地域に深く根づいた事業所である。日頃から、回覧板やゴミ出しを利用者とともに行ない、散歩時の挨拶も心がけており、また、地域や小学校の行事へ参加したり、ホームの行事へ地域住民を招待するなど、利用者が地域住民と交流を持てるよう積極的に取り組んでいる。平成16年の中越地震、平成19年の中越沖地震を経て、地域住民や地元消防団との災害時の協力体制も確立している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) サービス評価を前向きに改善していく機会ととらえ、前回の外部評価結果を参考にして具体的な改善を行った。『金銭管理の支援』では、利用者一人ひとりの力量や希望に応じて金銭を自己管理してもらったりホームで管理し、買い物や外出の際に利用者自身が支払い等をできるよう支援している。自己管理している方には、本人が残高確認や小遣い帳記入を行えるよう支援している。『介護計画作成』においては本人・家族にもサービス担当者会議に参加してもらうようにしたところ、具体的な希望や意向も聞けるようになってきた。健康診断の実施や、苦情相談の外部窓口の掲示も行った。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価を行うにあたり、スタッフ会議で評価の目的を共有し、毎日のミーティングで数項目ずつ話し合っって職員全員で現在のサービスについて評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、利用者家族・市担当課職員・町内会の代表・民生委員・町内保健委員・法人の第三者委員等の参加を得て、2ヵ月に1回開催している。利用者や職員の状況や外部評価結果等について報告し、委員からの意見をもらってホームの運営に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者の様子を面会時や介護計画作成の際のサービス担当者会議等で伝えるとともに、担当職員が利用者の生活状況を手紙にし、2ヵ月に1回家族に送付している。サービス担当者会議や家族会等の機会に意見や要望を聞けるよう努めており、小さなものも職員間で確実に伝達するようにしている。苦情や相談については、ホーム職員のほか、家族会の代表も窓口とし、家族に伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、回覧板のやりとりや地域行事、小学校の行事への参加をしている。回覧板では、ホームの広報誌も回してもらっている。また、ホームのお祭りにも地域の方から参加してもらったり、ホームの畑の収穫を地域の主婦や子どもたちと一緒にするなど、積極的に関わりをもっている。地域の方から野菜等を差し入れしてもらうことも多い。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らせるよう支援することを大切にされた法人の理念が掲げられている。その理念をもとに、ホームの各ユニットごとに、職員が毎年度の支援目標を作成している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新採用時の研修で、職員に理念が周知されている。また、スタッフ会議やリーダー会議等の折に、理念にそったケアが提供できているか振り返っている。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	ホームの理念や取り組みについて、広報紙で家族や地域に知ってもらえるよう取り組んでいる。家族会や運営推進会議でもホームの理念について説明を行っている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板のやりとりや地域行事、小学校の行事への参加をしている。また、ホームのお祭りにも地域の方から参加してもらったり、ホームの畑の収穫を地域の主婦や子どもたちと一緒にするなど、積極的に関わりをもっている。地域の方から野菜等を差し入れしてもらうことも多い。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果についてスタッフ会議で職員に周知され、結果をもとに具体的に改善を行った。今回の自己評価でも、毎日のミーティングで数項目ずつ話し合っって現在のサービスについて評価を行った。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族・市担当課職員・町内会の代表・民生委員・町内保健委員・法人の第三者委員等の参加を得て、2ヵ月に1回開催している。利用者や職員の状況や外部評価結果等について報告し、委員からの意見をもらってホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営に関する相談等、連絡を取り合っている。市が主催する地域ケア会議にも参加し、ホームの運営について協議している。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを整備し、虐待防止についての職員の認識を深めるよう努めている。利用者が外出・外泊から戻られた際には、利用者の様子に注意し観察している。職員の言動についても会議の話題として振り返ったり、管理者からその都度注意している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や介護計画作成の際のサービス担当者会議等で伝えるとともに、担当職員が利用者の生活状況を手紙にし、2か月に1回家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議や家族会等の機会に意見や要望を聞けるよう努めており、小さなものも職員間で確実に伝達するようにしている。苦情や相談については、ホーム職員のほか、家族会の代表も窓口とし、家族に伝えている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やリーダー会議を毎月行い、そこで出た職員の意見を運営に反映している。そのほか、職員の提案等は随時ユニットリーダーを通じて管理者に伝えられ、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設デイサービスセンターとの異動やホームユニット間の異動は極力行わないこととしている。1ユニットが民家改築型の建物のため、身体状況の変化により利用者がやむを得ずユニットを移る場合のみ、職員も1名ずつ異動し、利用者が不安なく新しいユニットに馴染めるよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	事故防止や感染症対策、個人情報保護、身体拘束、苦情解決等、各種のマニュアルが整備され、それぞれが随時見直しされている。マニュアルはスタッフルームに設置され、職員に周知されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画に基づき、新採用研修をはじめとした法人内外の研修が実施されている。職員は、外部研修や他施設への研修に計画的に派遣されている。研修後は復命書を回覧するとともに伝達研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への研修を実施したり、魚沼地域のグループホーム連絡会に所属して、情報や意見の交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	自己点検シートで自らの業務の振り返りを行い上司からのアドバイスを受けたり、上司との個人面談を行っている。また、職員同士悩みや不安を相談しやすい関係ができており、その都度言い合ったり話し合ったりしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人・家族にホームを見学してもらい、本人の納得の上で入居してもらっている。空いている居室がある場合は、数日間泊まってもらう場合もある。また、入居の際は、使い慣れた家具やアルバムなど馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に協力してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	縫い物が得意な利用者には他の利用者のズボンの裾上げをしてもらったり、利用者から教えてもらいながら一緒に畑仕事をするなど、利用者の得意なことや出来ることを活かしてもらい、支え合う関係づくりをしている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議では、利用者の状況について互いに共有し、家族からも協力して欲しい内容を介護計画に位置付けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や、どう暮らしたいかを把握するように努め、ケアに反映している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や過去の経験等を把握し、畑仕事や縫い物、パソコンの使用等、生活に活かしている。		入居時や、入居後に本人や家族から得た情報は介護計画に反映されているが、収集した情報をフェイスシートやアセスメントシート等記録として集積すると、一人ひとりの生活の経過や全体像がわかりやすく、情報としてより活用しやすくなると思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議には利用者本人や家族にも参加してもらい、それぞれの希望や状況、職員の気づき等をふまえて検討し、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに介護計画の評価を行い、見直しを行っている。また、状態変化があった場合は、随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて必要時は受診支援をしたり、健康診断をホームで支援している。また、医師の協力を得て往診を受けられる体制もある。利用者の希望に応じた外出支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に応じたかかりつけ医とし、連携を図っている。また、ホームの協力医療機関からは、往診や24時間の相談等の協力が得られる体制である。歯科検診は、協力歯科医院によりホームで実施されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の心身状況の変化に応じて段階的に、本人・家族の希望、医師の所見、ホームで出来ること・出来ないこと等をふまえて、本人の今後の生活のあり方を検討している。ホームで対応できること・医師の協力が得られることの範囲内で、ホームで終末期を支援することも視野に入れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの性格や状態を把握し、それに応じた個別の声かけ・対応をしている。利用者一人ひとりの台帳はスタッフルームの鍵のかかる場所に保管し、外出や受診の予定が書かれているホワイトボードも職員以外の目に触れることがない場所に設置されている。しかし、一方のユニットでは、排泄チェック表がトイレ内に置かれて複数の目に触れる状態であり、また、利用者の排泄状況に関する職員同士の情報交換が、他の利用者の前で口頭で行われている場面があった。		排泄に関することは利用者の羞恥心やプライドに深く関わることであり、利用者一人ひとりの尊厳に配慮した対応について改めて検討する機会としてほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の過ごし方は利用者一人ひとりのペースや希望に合わせて支援しており、職員主導で決めてしまうことのないよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設デイサービスセンターの栄養士が基本的な献立を作成しているが、ホームの畑で取れたものや差し入れでもらった野菜、利用者がその日食べたいものなどに応じて柔軟に変更している。野菜の皮むきや盛り付け等、可能な方には一緒に行ってもらっている。食事は、職員も利用者と一緒に同じテーブルにつき、会話を楽しみながら一緒に食べている。		利用者一人ひとりの心身の状況に合わせ、食事の準備や後片付け等にさらに参画してもらえよう、環境づくりや方法について今後もより一層の工夫を期待したい。
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄状況をチェックし、それぞれに応じたタイミングで声かけや誘導を行い、足腰が弱くなった方もトイレで排泄ができるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日でき、利用者一人ひとりの希望や状況に応じた回数や時間で入浴できるよう支援している。檜の浴槽で、腰かけや浴槽内で深さを調整できる板等を活用し、安全にくるいで入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が慣れ親しんだ畑仕事や縫い物を行えるよう支援している。また、利用者一人ひとりにあわせて金銭管理を支援し、外食や出前、買い物を楽しむ機会を設けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑仕事をしに外へ出たり、散歩や近所の豆腐屋、日用品や衣類の買い物に出かけている。また、地域の行事や小学校の運動会等にも積極的に出かけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを整備し、身体拘束を行わないことを職員の共通認識として、拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	川井ユニット、愛染ユニットそれぞれの建物の玄関は、日中は開放されている。愛染ユニットはデイサービスセンターの2階にあり、安全のため階段の2階入口には腰の高さの柵があり簡単な鍵がついているが、利用者は自由に柵を開けて1階に降りることができる。エレベーターは、利用者の希望に応じて職員が付き添って使用している。		階段の柵やエレベーターの使用について、利用者の自由な生活という観点から見直しを検討している。大げさでないメロディのセンサーを設置することも予定しており、利用者の立場に立ったよりいっそうの工夫を期待したい。
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを整備して周知するとともに、ヒヤリハット報告があった場合は、職員間で対応策を検討し実施している。一定期間が経過したのち、実施した対応策の効果を評価し、サービスの改善に活かしている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	急変や事故発生時の対応マニュアルが整備され、職員に発生時の連絡体制や対応方法が周知されている。看護師である管理者および職員がおり、緊急時の指示を仰ぐことができるほか、職員は年1回救急法の訓練を受け、応急手当や初期対応方法を学んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	中越地震・中越沖地震の経験をふまえ、災害対応マニュアルを見直している。年2回避難訓練を実施し、特に夜間を想定して重点的に訓練している。平成19年7月の中越沖地震後3ヵ月間は、余震に備えて毎月訓練を実施した。地域の方や消防団との協力体制もできている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設デイサービスセンターの栄養士がカロリーや栄養バランスに配慮して基本的な献立を作成している。また、一人ひとりの食事・水分摂取状況を把握し、その人の状態に応じて刻み食やお粥にしたり、食事摂取が難しくなってきた方には、とろみをつけたスープを別に作ったり、缶詰やプリンを利用するなどして個別に工夫している。水分も様々な飲み物を用意し、好みに応じて提供している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	川井ユニットは古い民家を改築した建物であり、梁や障子等を活かして利用者に馴染みのある生活空間になっている。愛染ユニットは新築されたデイサービスセンター2階にあり、木材を多用した温もりのある雰囲気である。それぞれのユニットには、家庭的な家具やコタツが活用され、ソファや利用者が座りやすい高さのイスとテーブルで複数の居場所づくりがなされ、利用者が思い思いの場所でくつろいだり寝ころんだりしている様子が見られた。また、季節の花や日めくり等馴染みやすいカレンダーがあり、季節感のある装飾が施されている。換気や室温調節も適切に行われ、気になる臭いもない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の協力を得て利用者それぞれにベッドやタンス等の家具を持ち込んでもらったり、家族の写真や配偶者の遺影を飾るなど、その人らしい居室づくりがなされている。		